

SUSTAINABILITY REPORT 2022

三本珈琲サステナビリティレポート 2022年度版



MITSUMOTO COFFEE

コーヒーを、どこまでも。



MITSUMOTO
COFFEE

関わるすべてのひとに、ちょっとした幸せを。

三本珈琲は1957年に横浜で創業し、日本のコーヒー文化とともに成長を遂げてきたコーヒーロースターです。

昨今の不安定な世界情勢により、資源価格の高騰や物資の不足、我が国においては急激な円安に見舞われ日本経済は非常に厳しい情勢です。

コーヒー市場においても競争が激化し、大きく変化し続けています。三本珈琲はロースターとして、一人ひとりのお客様に心から満足いただけるコーヒーづくりができるように、コーヒーをより深く熟知し、お客様に選りすぐりのものを提供することで、このような厳しい情勢でも発展し続けて参りました。

特に2021年から設置したサステナビリティ推進室での社会課題解決への貢献においては、事業の根幹にこの活動を据えて取り組んでおります。

太陽光パネルの設置による再生可能エネルギーの積極利用という基本的な取り組みから始まったこの活動も、現在では他の食品企業および国民の見本になり得る企業として、農林水産省の「SDGs×食品産業」のサイトで紹介されるまでになりました。

また、2021年度の消費者庁「食品ロス削減推進大賞審査委員会委員長賞」に続き2022年度には「食品産業もったいない大賞審査委員会審査委員長賞」を国内ロースターとして初めて受賞しました。このような評価につながった食品ロス削減への取り組みは食品事業者としての責務であり、今後も積極的に推進するとともに、コーヒーの可能性を掘り下げ、私たちだからこそできる持続可能な世界への貢献を果たして参ります。

「関わる全てのひとに、ちょっとした幸せを。」この幸せの輪が、一粒のコーヒーの滴から広がる波紋のように、世界の隅々を満たし潤す姿をイメージして、今後も取り組みを続けて参ります。



代表取締役 山本 聡

ピックアップ 3・4

編集方針 5

サステナビリティ推進体制 6

三本珈琲のステークホルダー 6

三本珈琲のマテリアリティ・マテリアリティ分類 7・8

プロジェクト 9・10

活動実績 11～

マテリアリティ1 「環境への取り組み」 11～15

マテリアリティ2 「社会への貢献」 16・17

マテリアリティ3 「GRC」 18

あとがき 19

想い 20





農林水産省の公式サイトに弊社の取り組みが紹介されました！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 食品産業

～持続可能な社会と食品産業発展のために私たちにできること～

始まった食品事業者の取組

コーヒーを、どこまでも。



MITSUMOTO
COFFEE

三本珈琲株式会社

インタビューで取り上げたSDGs



三本珈琲株式会社 常務取締役 山本将人さん
同 サステナビリティ推進室 室長 正木陽子さん

三本珈琲株式会社は1957年に横浜で創業、「コーヒーを、どこまでも。」をスローガンに、ロースターとして企画、製造、物流の体制を確立し、現在ではコーヒー豆の焙煎・加工・販売、コーヒー関連商品の取り扱いの他、カフェを始めとした店舗企画・運営等、コーヒーに関わるさまざまな事業を行っています。

この度企業のSDGsの取り組みについて三本珈琲株式会社の常務取締役 山本将人さん、製造部門 納括本部 サステナビリティ推進室 室長 正木陽子さんにお話を伺いましたので、その内容をご紹介します。

取材日：2021年12月20日 三本珈琲株式会社鎌倉総合工場にて

世界中で愛されるコーヒーから「ちょっとした幸せを、世界中のひとに届ける」を目指しています

社会・コーヒー業界での存在意義

横浜の小さな喫茶店にコーヒーを卸すところからスタートした当社は、地場に根付く企業を目指して運営を始め、現在では全国に支店を構える企業に成長しました。1989年には地元横浜で開催されたYES'89横浜博覧会に「MMCコーヒー地球体験館」を出展、その頃から社会との繋がりを大切に、社会に貢献できる取り組みを始めていこうと考え、会社としては、しっかりと経営をしながら、社会にとってどのような役割があるのかを考えてきました。

当社は、自社で使用するコーヒー生豆の大部分を生産国やコーヒーサプライヤーから直接輸入するなど、自分達で産地の状況を把握しながら、責任ある仕入れ体制を構築しています。また、お客様の「おいしい」のために、それぞれのご要望に寄り添う味づくりを強みとして製造を行っています。その結果、製品構成は小ロット多品種になりますが、コーヒーの魅力を様々なお客様へお届けすることができます。

さらに、当社がSDGs活動を推進することによって、コーヒー業界から持続可能な世界づくりを広げることにも貢献できると考えています。

SDGsは組織と世界が共に生きるための必達の目標

当社にとってSDGsとは「組織と世界が共に生きるための必達の目標」と考えています。明日からではなく、今すぐ何かを始めるといった姿勢を大切に取り組み続けています。

また、パートナーシップを活かすことも大切であると考えており、そのためには「三本珈琲がこんな面白い取り組みをしている」ということを多くの方に効果的に発信していくことが重要と考えています。

実際、様々な方面から取り組みへの協力のお声かけをいただく機会も増えており、活動を共に作り上げ双方で発信することでどんだん世の中に取り組みの輪が広がっていくように感じています。

一つの組織で取り組むよりも多くの参加者がいたほうがその輪は大きくなるので、そのような相乗効果が未来にまで伸びて繋がる、世界と共に生きる役に立つ企業として、今後も「ちょっとした幸せを、世界中のひとに届ける」取り組みを続けていきます。



第10回食品産業もったいない大賞受賞！

第10回「食品産業もったいない大賞」(主催:公益財団法人食品等流通合理化促進機構、後援:農林水産省)にて当社の「広げよう! 幸せの輪 全員参加型食品ロス削減推進モデル」が審査委員会審査委員長賞を受賞しました。



2023年1月30日に行われた表彰式典のようす(ウェブ開催)
細田衛士審査委員長(左)より表彰状を授与される山本常務取締役(右)

第10回食品産業もったいない大賞

★応募名称
広げよう! 幸せの輪
全員参加型食品ロス削減推進モデル

★会社名・事業名
三本(みつもと)珈琲株式会社(神奈川県横浜市)

URL: [https:// www.mmc-coffee.co.jp](https://www.mmc-coffee.co.jp)

【目的】
1年間に10トン以上出る、品質には問題ないも関わらず、「焼きすぎ」「焼き不足」「ローストの過程で割れた豆」などの規格外品のほか、再密着で出荷できないもの、箱に入らない雑穀品など行き場がない豆(もったいないコーヒー)は廃棄され食品ロスとなっていた。自社のもったいないをなくすこと、そして一般のコーヒー豆の有効活用を図るこの取組を通して、共助の輪を広げることを目指して製造段階での食品ロスを再生する「三本コーヒーオリジナルブレンド」を開発。

【具体的な内容】
コーヒーの製造過程で生じる規格外品、品質には問題ないが製品にできなかった「もったいない」原料を使用したコーヒーを製造管理で一手間かけて製品化したのが、「三本コーヒーオリジナルブレンド」。これを起点に「全員参加型食品ロス削減推進モデル」を開始。活動に賛同する小売店は取引先を中心に292(7月/RA現在)店舗で販売され、売上金の一部(20円/袋)を社会貢献活動の原資(約120万円(約6万袋))に提供している。原資を元にオリジナルブレンドを取り扱う販売店の賞味期限が近づいた商品を当社が買い取り、フードバンク等に寄贈するシステムを構築。「作り手」「売り手」の食品ロスを同時に削減。珈琲輸入者は買戻しで社会貢献に参加、三方よしの「全員参加型食品ロス削減推進モデル」を構築した。

◆今後の展開◆
活動の資金はオリジナルブレンドの販売により得られている。企業活動が継続する限り、「全員参加型食品ロス削減推進モデル」に継続的に取り組むことができる。得られた活動費でフードバンクへの寄贈、被災地への支援、小学校等での啓蒙活動などにも柔軟に支援を行っていく。認知度向上に伴う効果として、業務店向けの新たな商品提案においてもストーリー性のある社会貢献型新商品の提案、導入が容易になった。また、新規取引先の増加、既存取引先との取引量の増加などに繋がっている。

◆フードバンクへの寄付(株式会社フーズパートナーズ)◆
◆学びのSOGsセミナー(ザ・イベントMAX 福島店)◆

私たちの目標と想い

- 私たちに目標があります。三本珈琲の企業活動の中で発生する食品ロスを全て有効利用し、多くのパートナーシップとやる気を持って取り組むことで、全員参加型食品ロス削減推進モデルの有効性を最大化する事を。
- 私たちに希望があります。業界中の食品製造業者が私たちと同様に食品ロス削減の取り組みを行う事で、必要な食料が行き届き、世界中の人たちが笑顔で過ごせる世界を。
- 私たちに希望があります。私たちが食品ロスに対して問題意識を持った食品企業が世界中に広がっている事を。そして、イベントや食品ロス削減の大切さを理解した子供たちが大きくなった時、同じように必ず問題意識を持って、取り組んでくれる事を。

三本珈琲は、幸せな地球へのバトンを、確実に次世代に渡す能力をこれからも磨きます。

三本珈琲の2030年までの食品ロス有効利用率目標 **100%**

公式サイトは
こちらから！



「食品産業もったいない大賞」について：
農林水産省HP



第10回食品産業もったいない大賞表彰事例集

三本珈琲株式会社の2023年サステナビリティレポートは、
以下の方針に基づき作成します。

報告対象範囲	三本珈琲株式会社製造部門
報告対象期間	2022年4月1日～2023年3月31日(2022年度)
報告目的	・取り組みの現状把握 ・取り組みの継続的改善 ・利害関係者への活動状況報告
報告頻度	1回/年(毎年7月)
参考とした ガイドライン	ISO26000、GRIスタンダード

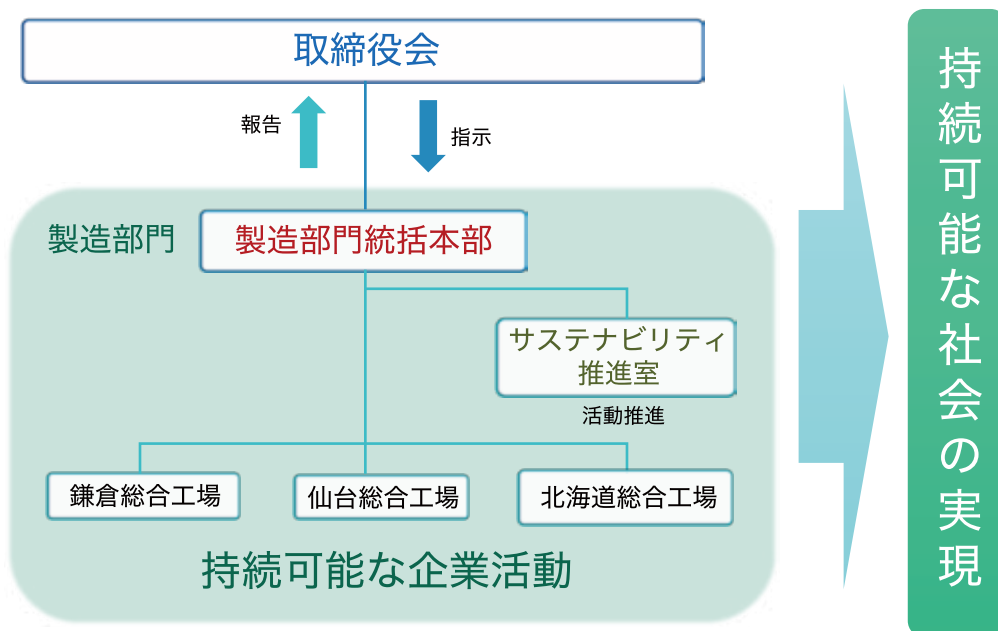


三本珈琲株式会社は、鎌倉総合工場、仙台総合工場、北海道総合工場の3つの生産工場を有しており、製造部門を形成しています。

サステナビリティ推進室は製造部門を統括する製造部門統括本部内に設置され、製造部門統括本部長が最高責任者となって、三本珈琲のサステナビリティ活動を推進しています。

推進状況はサステナビリティ推進室から製造部門統括本部長を通して本社取締役会に報告され、審議されます。

取締役会の審議結果は製造部門統括本部長からサステナビリティ推進室にフィードバックされる仕組みを取っており、当社のサステナビリティ活動は常に経営層の意思・方針となることを確実にしています。



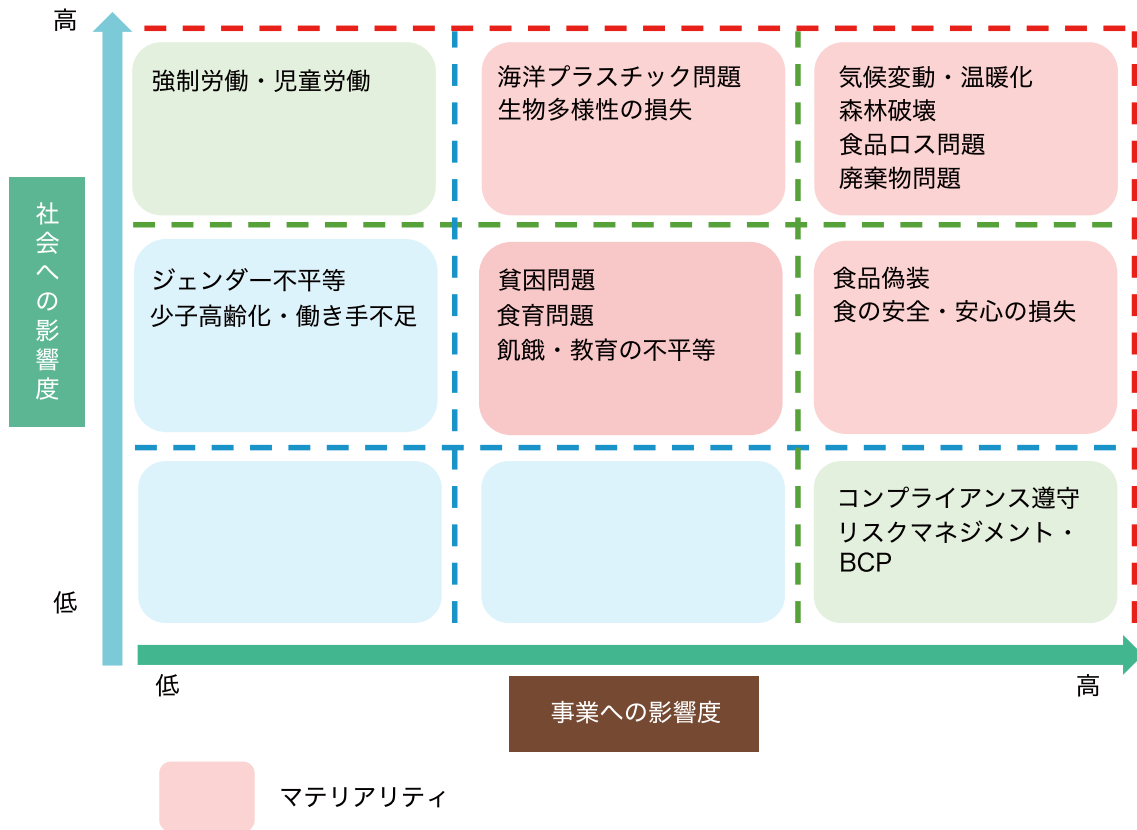
STAKEHOLDERS OF MITSUMOTO COFFEE

三本珈琲のステークホルダー

三本珈琲株式会社は、ステークホルダーを以下の通り特定し、効果的なコミュニケーションに取り組んでいます。

ステークホルダー	コミュニケーション(頻度)
お客様	営業活動(随時)
取引先/業務委託先	購買活動/取引(随時)、定期監査(1回/年)
消費者	販促物(随時)
地域住民	説明会(随時)、災害時の支援(随時)
行政機関	各種申請・更新(随時)、講習会・説明会への参加(随時)
従業員	個人面談(2回/年)、コンプライアンス窓口の設置(随時) 目安箱の設置(随時)

三本珈琲はBtoB領域を強みに成長してきましたが、近年BtoC領域にも力を注いでいます。三本珈琲では「社会への影響度」及び「事業への影響度」を考慮し下記の通り重要課題（以下、マテリアリティ）と位置づけ取り組んでいます。



※三本珈琲のマテリアリティは、社会への影響度、事業への影響度のどちらも「高」と評価されるか、どちらかが「高」でどちらかが「中」、及びどちらも「中」と評価されたものとしています。



MATERIALITY CLASSIFICATION

マテリアリティ分類

三本珈琲のマテリアリティは「環境への取り組み」、「社会への貢献」および「ガバナンス・リスク・コンプライアンス(GRC)」に分類して管理しています。それぞれの具体的な取り組み、目標及び対応する持続可能な開発目標(以下、SDGs)を以下の通り決定しています。

SDGsとは…

持続可能な開発目標(SDGs)とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くために2015年の国連サミットで採択された世界中のみんなで取り組む17の目標のことで、SDGsの目標は相互に関連しており、誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。三本珈琲は、これらへの貢献を宣言し、組織の重点課題と紐づけて取り組んでいます。

Sustainable Development Goals



マテリアリティのカテゴリ分類【2023年3月現在】

	マテリアリティ	具体的な取り組み	目標	SDGs
環境への取り組み	気候変動・温暖化	CO ₂ 削減 ①太陽光パネルの設置により再生可能エネルギーを使用 ②照明LED化による電力消費量削減	2030年までに製造活動により排出されるCO ₂ をCO ₂ 排出原単位で2018年度比30%削減	
	森林破壊	FSC® 認証マーク製品の積極利用	2025年までに100%の段ボールをFSC認証マーク製品に切替える	
	海洋プラスチック汚染問題	プラスチック製品使用量の削減 包材材質の紙転換	2030年までに50%の一杯抽出型ドリップコーヒー包材材質を紙素材に切り替える。	
	生物多様性の損失	レインフォレスト・アライアンス認証農産物生豆の積極利用	—	
	食品ロス問題	①全員参加型食品ロス削減推進モデルの運用 ②フードバンク等への寄付	2030年までに2021年度からの累計で300トンの食品ロス削減	
	廃棄物問題	未利用資源の新規用途開発・チャフ(シルバースキン) ①牧場等での床敷等による活用 ②食品への応用の研究 ③バイオマス燃料としての用途探求・麻袋農家・動物園での再利用	2030年までに製造工場から排出される廃棄物をゼロにする。	
社会への貢献	貧困問題	フードバンク等への寄付	—	
	飢餓・教育の不平等	国連WFPレッドカップキャンペーン参加	2030年までに国連WFPへの寄付額を2022年度比で200%にする	
	食育問題	コーヒーセミナー、子供SDGsセミナーの開催	子供SDGsセミナーの継続開催	
GRC	食品偽装/食の安全・安心の損失	FSSC22000の効果的な運用	継続的改善システムを維持更新し続ける	

一杯のコーヒーで、子ども 学校給食で

ーサンシャイン



1 コーヒーの産地国の多くが
飢餓と貧困で困っています。

コーヒーの産地国の多くが慢性的飢餓に苦しんでいます。



2 学校給食を支援することで
救える命があります。
叶えられる夢があります。

- 栄養状態や健康が改善されます。
- 出席率が上がり、
子ども達の知識レベルが上がります。
- 新しい技術が生まれ
産業が発展します。
- 国が豊かになります。



子どもたちに
光ある未来が開かれます。



レッドカップキャンペーンは
国連WFPを通じて
途上国の学校給食を支援します。



学校給食支援実施国: 59か国
(2022年)

学校給食支援を受けている
子ども達: 2,000万人以上
(2022年)

たちの未来に光を照らそう!

未来を創る!

コーヒープロジェクト

公式サイトは
こちらから!



SUNSHINE
COFFEE PROJECT



国連WFPの
レッドカップキャンペーン



国連WFP協会 企業・団体連携チーム
中田 華 様からのメッセージ

国連WFPの支援国で生産されたコーヒー豆を使った「SUNSHINE COFFEE PROJECT」のコーヒーは、飲んでいただくだけで途上国の子ども達に学校給食を届けることができる、Win Winな素晴らしい取り組みです。国際支援に貢献することは決して難しくはなく、生活の身近なところより支援のきっかけは見つかります。ぜひ「SUNSHINE COFFEE PROJECT」をはじめ、皆さまの周りのレッドカップキャンペーン商品を探してみてくださいますと幸いです。

4

三本珈琲は2022年5月より「SUNSHINE COFFEE PROJECT」を発足し、本プロジェクトへの参加を通してより多くの企業がレッドカップキャンペーンを支援できる取り組みを実施しています。「SUNSHINE COFFEE PROJECT」参加企業は三本珈琲のレッドカップキャンペーン製品を購入し、その売上の一部はプロジェクトを通して国連WFPに寄付されます。

SUNSHINE COFFEE PROJECT
賛同企業



売上金の一部を
寄付

学校給食
支援



途上国の
子どもたち

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は、
学校給食支援を通して、
地球を照らす太陽の光のように、
世界中のこどもの笑顔と
未来をはぐくむ取り組みです。



マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：気候変動・温暖化

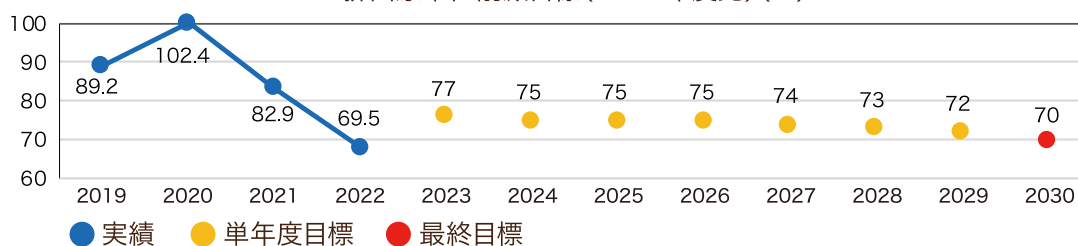
【目標】2030年までに製造活動により排出されるCO₂をCO₂排出原単位で2018年度比30%削減。

① 再生可能エネルギーを使用した生産活動

工場に太陽光パネルを設置し、製造活動に使用する電力の一部を再生可能エネルギーで賄い、CO₂を削減しています。

2022年度 CO₂排出原単位削減実績(%)

-30%

CO₂排出原単位削減目標(2018年度比)(%)

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

2022年度は太陽光パネルの稼働が安定しており、パネル故障や天候不良が少なかったことで削減実績が高まった。設備能力としては本目標値の維持が妥当と考え、引き続き機器のメンテナンス等を行い安定稼働に努める。

② 照明LED化による電力消費量削減

【2022年度取り組み実績】

●LEDへの切り替えが資材不足などで遅延したため2023年度より本格稼働。



電気消費量削減目標

-5%

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

各工場の総電気使用量と製造量の相関等数値を2022年度以前と2023年度以降を比較し傾向を把握していく。

マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：森林破壊

【目標】2025年までに100%の段ボールをFSC認証マーク製品に切り替える。



● FSC マーク付き製品の積極利用

【2022年度取り組み実績：FSCマーク付き段ボールへの切り替え率】

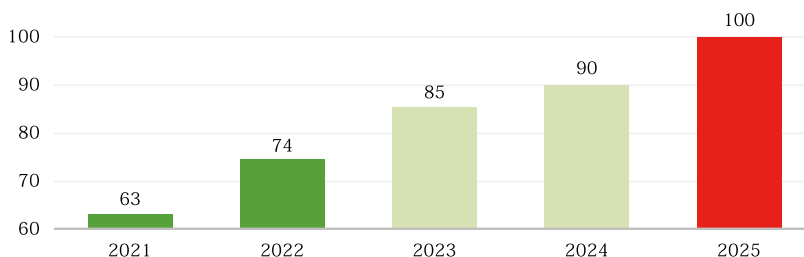


製造工場名	FSCマーク付き 段ボール使用率	2022年度実績
鎌倉総合工場	71%	74% (3工場合計)
仙台総合工場	84%	
北海道総合工場	42%	

【FSC 森林認証とは】

FSCが定めた規格をもとに、適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、その他のリスクの低い木材や再生資源を使用した製品にFSCラベルを付け、認証製品として販売できる制度です。FSCラベルを目印に認証製品を選んで購入することで、認証された森林資源への需要が高まり、適切に管理された森林の拡大につながります。(FSC®N003172)

FSCマーク付き段ボール切り替え目標 (%)



目標の修正：切り替えが順調に進んでいることから、2023年度の目標値を85%に引き上げる。

▼2023年度の課題事項

2022年度は順調に主力製品等の切り替えが進んだが、100%の達成には海外向け製品において一部切り替えが困難なものがあった。今後の動向を見てその製品を対象外とし達成目標年度を早めることや、追加の効果的な取り組みの導入を検討する。

課題：海洋プラスチック問題

【目標】2030年までに50%の1杯抽出型ドリップコーヒー包材材質を紙素材に切替える。



● プラスチック製品使用量の削減：包材材質の紙転換



パッケージの一部に紙を使用しています。

【2022年度取り組み実績：1杯抽出型ドリップコーヒー包材の紙切り替え率】

プラスチック削減量 (Kg)※	切り替え率
4,445kg	41%

※一杯抽出型ドリップトップコーヒー1個当たり0.96gのプラスチックを削減するとして算出

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

顧客要求も増えてきていることから引き続きパッケージのプラスチック量削減に取り組む。他製品への展開も2023年度の動向を踏まえて目標値を設定していく。

マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：生物多様性の損失



● 環境保全型認証農園産生豆の積極利用

取り扱い認証各種



レインフォレスト・アライアンス認証一人と自然により良い未来。www.rainforest-alliance.org/lang/ja



有機JAS



国際フェアトレード認証

【 2022年度取り組み実績：環境保全型認証農園産生豆の取扱数量 】

2013年度対比2022年度取扱量増加率

+34%

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

引き続き積極利用。

マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：食品ロス削減

【目標】2030年までに2021年度からの累計で300トンの食品ロス削減。



2022年度 食品ロス削減数量

2021年度からの累積

約20t

約34t



① 全員参加型食品ロス削減推進モデルの継続的活動

2021年から販売を開始した、コーヒーの製造時に発生する食品ロスを活用して作られる「三本珈琲オリジナルブレンド」。その売上金の一部は社会貢献活動に使用されます。2022年度は、これまで実施してきたフードバンク等への寄付の他、啓蒙活動も関係各所との連携を活かして行われました。

スーパーで発生する食品ロスを活用した
ホテルを会場とした
子ども向けイベントの開催



特定
非営利団体へ
寄付



② 食品ロス削減推進大賞に続き！

食品産業もったいない大賞審査委員会審査委員長賞受賞！

2021度の「食品ロス削減推進大賞」(主催：消費者庁)での審査委員会委員長賞の受賞に続き、2022年度は「食品産業もったいない大賞」(主催：公益財団法人食品等流通合理化促進機構、後援：農林水産省、後援：環境省・消費者庁)において審査委員会審査委員長賞を受賞しました。(巻頭PICK UP記事にも掲載)



食品産業もったいない大賞授賞式の様子



食品ロス削減推進大賞授賞式の様子

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

引き続き本モデルの推進、未利用資源の有効活用に取り組む。
今年度は特に関係各所の連携を意識した活動を広げることに注力する。

マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：廃棄物問題

【目標】2030年までに製造工場から排出される廃棄物をゼロにする。



● 植物性廃棄物の有効利用

① シルバースキン(チャフ)の活用

コーヒーを焙煎する時に発生するコーヒー豆の薄皮、シルバースキン(チャフ)は月間で約2トン発生しており多くは廃棄されていましたが、動物の床じきやバイオマス燃料の他、食品として活用することも含めて検討をすすめていきます。



シルバースキン(チャフ)

エネルギーとしての利用

パートナーでの有効利用

新規食品素材としての利用

2022年度 再利用率

56.0%



写真提供：横浜市立金沢自然動物園



シルバースキン床敷



② 麻袋の再利用

コーヒー生豆が入っている麻袋は、農家や動物園で様々な用途で活用されています。



麻袋で遊ぶチンパンジー

写真提供：旭川市旭山動物園

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

2023年度は、特にシルバースキン(チャフ)の有効活用に注力し、引き続き2030年までに工場からの廃棄物ゼロを目指す。

マテリアリティ2 「社会への貢献」

課題：食育問題

【目標】SDGsセミナーの継続開催。



未来を担う子供たちに、
光り輝く未来創りをバトンタッチ！

【2022年度実績】

セミナー内容	対応件数	総件数
SDGsセミナー	8件	23件
SDGsイベント	6件	
対談、取材、交流会等	5件	
子ども食堂支援	4件	



目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

コロナ禍の影響を大きく受けていた2021年度に比較して、2022年度は約3倍の件数に対応できた。対応件数は本水準維持を目標に、2023年度も1つ1つを大切に、各所連携を意識して対応していく。

マテリアリティ2 「社会への貢献」

課題：貧困問題

【目標】フードバンク等への寄付活動に引き続き取り組む。



誰一人取り残さない笑顔溢れる社会を目指して、
三本珈琲はフードバンクを通じて、
積極的に社会貢献に努めています。

【フードバンクへの寄付実績】

2021年度からの累計寄付実績



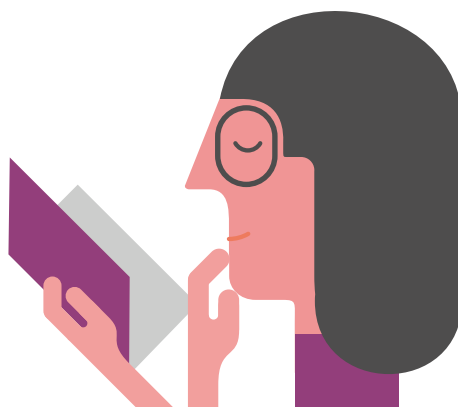
寄付先	寄付数量
東北AGAIN フードバンク札幌 等	4,863kg

※2021年4月～2022年3月

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

食べ物を食べ物として必要な先に届けることを最優先に考え、
引き続き寄付を行う。



マテリアリティ3 「GRC」

課題：食品偽装/食の安全・安心の損失

【目標】継続的改善システムを維持更新し続ける。



● FSSC22000の効果的な運用

鎌倉総合工場、仙台総合工場では食品安全のグローバル認証であるFSSC22000を取得し、システムの継続的改善に取り組んでいます。



鎌倉総合工場



仙台総合工場

目標の修正：なし

▼2023年度の課題事項

認証維持を通して、対外的な信頼性確保・向上に加え、組織のシステムの継続的改善が確実となるよう運用していく。





SDGs

Sustainable Development Goals

2022年度は、これまで新型コロナウイルスなどの影響で世の中の活動が様々な縛りを受けてきた部分が徐々に緩和されたことで、当社の活動もより幅広く展開できるようになったと感じています。製造時の取り組みをはじめ、特に影響が大きかったのはセミナーなどの啓蒙活動やイベント開催で、前年度に比べて大きく件数を増やして実施できました。対面での開催が可能となったことも一つの要因と考えますが、昨年度からの継続した活動実績の発信をキャッチしていただきお声がけいただく機会も多かったため、世間の状況と当社の活動認知度の向上が活動の幅を広げたものであると考えています。自分一人で行うことには限界があり、しかし一人ひとりが取り組みを始めれば決して解決できない地球規模の大きな課題に、企業として具体的に何を行うことが効果的かと考えると、最終的にはパートナーシップの構築とその連鎖の起点になることではないかと思っています。当社にサステナビリティ推進室が設立されたばかりの頃に、持続可能な世界への当社の想いを表明した文章があるのですが、最近それを読み返したときハッとさせられ、初心を忘れてはいけないという言葉思い出しました。「慣れ」や「思い込み」や「普通は～」という考えにとらわれずに、いつも真摯に自分やまわりを受け止めて、小さくても自分ができるところを見つけて、信念を持って続けていくこと。これからも、この大きくて身近な課題に対し諦めたり形だけになったりすることなくパートナーシップの輪を広げて、みんなで小さくても確かな一歩を踏み出し続けられるよう活動したいと思っています。2021年度に引き続き、今年度も当社の活動が「食品産業もったいない大賞審査委員会審査委員長賞」という賞をいただきました。大変ありがたいことです。国連WFP協会のレッドカップキャンペーンへの参加も実現し、コーヒー生豆生産国の子どもたちの学校給食支援にも手を差し伸べることができ、この活動は今年度も継続して注力していくとともに、製造工場としては廃棄物ゼロの循環型生産工場を実現すべく、各種目標に引き続き取り組んで参ります。

サステナビリティ推進室 正木陽子



彩りあふれる世界のために

私たちの普段の生活のなかに、
自分以外の誰かのために
つながることは沢山あります。

私たちの事業活動にも、
多くの可能性が潜んでいて
コーヒー豆を生産する海外の農園から、
世界中の食卓で湯気をたてるカップ一杯のコーヒーまで、
それぞれの「手」に込められた想いをつないでいくことが
コーヒーに関わる企業としての
私たちの重要な役割の一つだと考えています。

「誰ひとり取り残さない」社会のために、
小さくても何かできることをしたい。
そのために、これまでのあたりまえを、
信念を持って、変えていく。
未来のために、続けていく。

「MITSUMOTO COFFEE SUSTAINABLE PROJECT」は、
持続可能な世界のために、
一粒のコーヒーでつながる想いを未来につなぐ
私たちの小さくても確かな一歩です。



MITSUMOTO COFFEE



**MITSUMOTO
COFFEE
SUSTAINABLE
PROJECT**

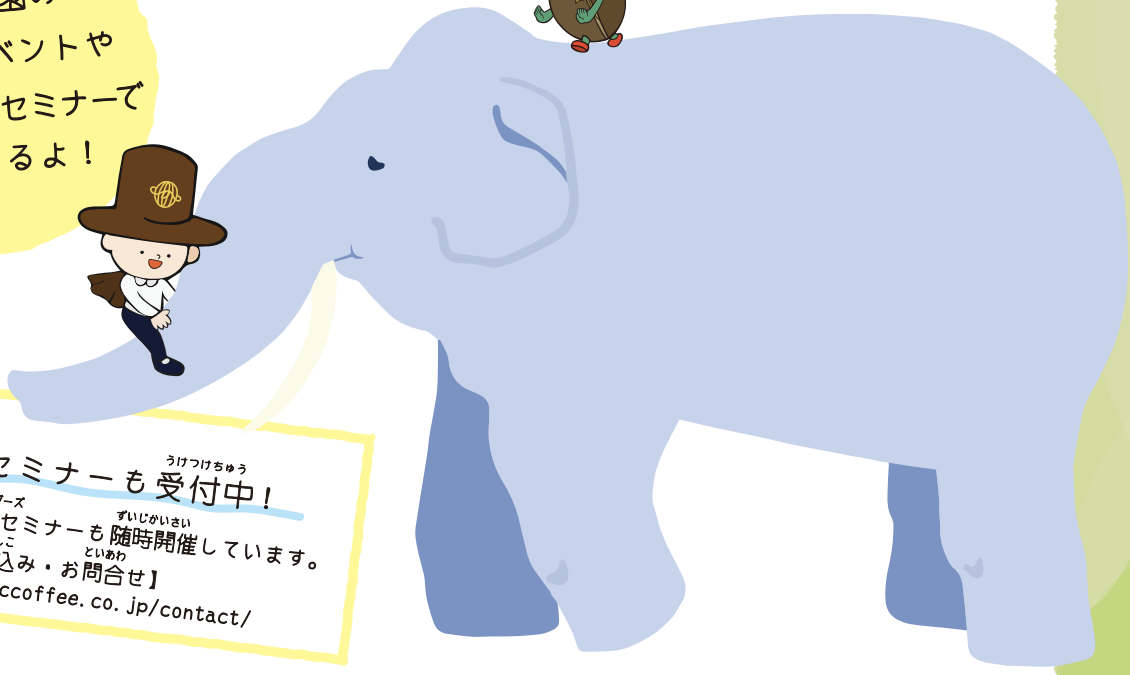
持続可能な世界を、
一粒のコーヒーから。

MEMO
メモ

A series of horizontal wavy lines for writing.

Handwriting practice lines consisting of 18 horizontal lines with wavy midlines.

どうぶつえん
動物園の
エスディーゼーズ
SDGsイベントや
こどもエスディーゼーズ
子供SDGsセミナーで
ま
待ってるよ!



こども エスディーゼーズ
子供SDGsセミナーも受付中!
しょう ちゅうがくせいむ エスディーゼーズ うけつけちゅう
小・中学生向けのSDGsセミナーも随時開催しています。
ずいじかいさい
【お申込み・お問合せ】
もうしこ といあわ
<https://www.mmccoffee.co.jp/contact/>



持続可能な世界を、一粒のコーヒーから。